

彩・菜・栽

2015年
7月

必ず成功するワケギ作り



野菜作りの難易度が最も低いグ

ループ、すなわち誰でも作れて、身近にあると大変重宝するお薦め野菜がワケギです。

ネギとタマネギの仲間シャロットの自然交雑により生まれたF1で、種子はできず、もっぱら球根により増殖します。そのため種球（球根）を

植え付けて育てるのです。秋口に種

球を植えておくと間もなく芽が出てきて、1株から20〜30本もの細ネギ

が伸び、柔らかくて香りのある葉が収穫できます。薬味や吸い口に、鍋物に、魚介：…と調理を楽しめます。

もう1つ魅力なのは、葉を刈り取るとすぐに再び若い葉が出てくることです。そして、ワケギの性質として一生花を付けず、とう立ちしないので、刈り取りを数回以上行うことができます、同じ株を秋↓冬↓春と、大変長い間利用できることです。

育て方は至って簡単。7〜8月になるとネット袋に多数入った種球が売り出されるので、それを買って、1カ所2〜3球ずつまとめ、株間15〜20cm間隔に植え付けます。プランターにも好適で、縦長の20×80cmくらいの大きさなら2列に、15cm間

隔くらいでもよいでしょう。植え付けに先立って、図のように病害などに汚染されている外皮を取り除き、充実した球を選ぶようにします。良質の葉を得るには前もって完熟堆肥と油かすなどを施しておくことが必要です。植え付けに当たっては少し伸び始めている芽先が、地面のぞく程度の深さになるよう留意します。

芽が伸び、草丈が15cmくらいになった頃、株間に化成肥料と油かすを少々（5株当たり各大きさ1杯ぐらい）を与えます。

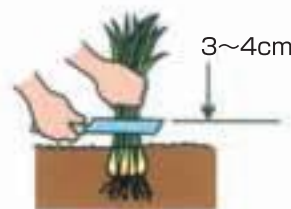
収穫は草丈が20cm内外に伸びた頃から行うのが一般的ですが、株元を地上3〜4cmほど残して、はさみか刃物で刈り取ります。ネギ類は全てそうですが、切り口からはすぐに、

中で分化、成長しつつあった新葉が伸び出し、やがて元のワケギの形に育っていきます。刈り取ったらすぐに前回と同じくらいの肥料を株の周りに施し、土に軽く混ぜ込んでおきましょう。量や回数は、葉色や葉の伸び具合を見て適宜調整してください。

収穫は4月中旬頃まで（品質が低下してしまうまで数回の刈り取り）続けることができます。その後次第に葉が黄化し、ついには完全に枯れ上がってしまいます。この頃には株元にたくさんの球根ができ、休眠状態に入ってしまうます。これは次年度の種球として利用できるのが大助かりですね。休眠が明けるのは7月頃からです。それまで風通しの良い日陰で転がしておくだけでよいのです。



外側の枯れた皮を取り外し
2〜3球ずつに分ける



地上から3〜4cm残して
刈り取る



15〜20cm以上になった
ころに再び収穫する